

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 千葉市大宮学園 たけのこルーム		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 23日		～ 令和6年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数) 21人
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 6日		～ 令和7年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園により児童への理解が深まり、保護者の児童への関わり方や保護者支援に繋がる。	療育活動を通して、親子の関わり方や児童の特性、理解に繋がるようグループに合わせ工夫している。	職員は、内外部の研修に積極的に参加し知識や技術を学び、質の向上を目指し児童と保護者の信頼関係を深める。
2	保護者同士のつながりが持てるようになる。	保護者同士の情報交換や交流が持てるように分離の時間を設けている。	分離の実施における回数などが、グループや曜日によって偏りがあるため、計画を立て計画的に実施する。
3	小集団での個々に合わせた療育活動を行っている。	一人ひとりに合った関りと友達同士の関わり(コミュニケーション)、ルール理解(社会性)などの経験が積み重なるように工夫している。	職員が、内外部の研修に積極的に参加し知識や技術を学び、質の向上を目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との日々の相談や聞き取りは、グループ活動の中で聞くことが出来るが、個別支援計画面談以外の面談の回数が少ない。	事前に保護者に、面談を行うことを伝え時間調整をしながら行っているが、療育中に職員が対応し面談することが難しい。	個別支援計画面談以外に、日程など計画的に立てて時間などを確保し面談を行う。
2	各マニュアルの周知と説明不足のため、理解されていない。 避難訓練は実施しているが、欠席により避難訓練に参加されていない児童と保護者がいる。	契約、更新時に口頭のみで各マニュアルの周知をしている。 避難訓練の日程が、周知されていない。	利用契約書、重要事項説明書などから書面での説明を行う。避難訓練の日にちを周知し参加を促す。
3	運動遊具や教材が古くなり、療育に活かされていない。	少しずつ新しい教材や玩具を取り入れているが、十分ではない。	時代に合わせた教材を導入し、療育の幅を広げる。